

視察報告書

令和 7 年 2 月 10 日

府中市議会議長 本谷宏行 様

会派名又は 経政会

議 員 名 森川稔／田辺稔／藤本秀範

日 時	令和 7 年 1 月 30 日（木）
視 察（ 研 修 ） 先	1. やまぐち DX 推進拠点 Y-BASE（山口県山口市熊野町） 2. 山口大学／DX 人材育成推進室
視 察（ 研 修 ） 項 目	DX に関する調査と研究
参 加 者	森川稔／田辺稔／藤本秀範（会派：経政会 3 人）
面談者および聞き取り内容 （主な取り組み等）	〔1〕 やまぐち DX 推進拠点 Y-BASE（山口県山口市熊野町） 〔面談者〕 ○（一財）山口県デジタル技術振興財団 理事長 原田英明 ○やまぐち DX 推進拠点 シニアマネージャー 森川高志 1. Y-BASEの機能として次の4つの機能を持たれている。 ① 情報収集：県内外のDX情報が集まる情報共有機能 5G 通信と生成 AI（人工知能）の配備とあわせた展示室から得られるデジタル技術が体感できる。 ② 相談：DX相談窓口・DXコンサルティング機能 専門サポートから DX 技術の活用方法など得られる。 試行：簡易的なPoCを可能にするICT環境/技術サポート機能および課題解決に向けたデータ分析や実証実験を ICT 環境（クラウド）を活用した技術サポートを行っている。 ③ 学習・交流：デジタル人材育成機能/新たな価値を創出する場や DX に関するセミナーや研修を通じたワークショップの開催や AI データを活用した実践型の研修によるイベントを開催している。 2. Y-BASEへの相談事例・2021年11月の開設以降～ ① DX情報収集 ・中小企業におけるDXの進め方がわからない。

- ・既存システムの移行・更改にあたって情報収集がしたい
- ・拠点間・遠隔地等オンラインを活用した働き方を知りたい

② 業務改善

- ・煩雑なメール・文書管理プロセスを改善したい
- ・ペーパーレス化による業務効率化を図るポイント

③ データ活用

- ・ローコードツールを使用したデータ活用の手法について
- ・自社のデータをビジネスに活用したい。
- ・市民・顧客の声をデータ化し、分析・活用したい。

3. Y_BASEの利用の流れ

① 課題やニーズに応じた適切な支援方法を見極め、議論しいて課題解決まで支援



従来であれば、DXコンサル開始には、何らかの契約が必要であるが、ここでは実証実験が完了してからで良く、導入リスクが下がる。

② 支援の対応可、対応不可の範囲について各項目で次のように決められている。

	対応可	対応不可
コンサル	- 業界トレンドやDX先進事例等を紹介 - 課題整理・取り組み内容検討サポート - 施策・アイデア創出サポート	- 現地調査・ヒアリング - プロジェクト計画書・報告書などの個別プロジェクトに関する資料作成
実証準備	- Y-Cloud で提供するツールの貸出・レクチャー - ベンダー・パートナーの紹介	- 現地ステークホルダーとの調整 - Y-Cloud以外のツールや設備※の準備・設置 - ベンダー・パートナーの調整 ※カメラやセンサー等
実証実験	- プロジェクト推進サポート - アプリケーションや分析ダッシュボード等のサンプル作成 - 評価サポート、実運用に向けたアドバイス	プロジェクト管理等の実施・運用 (実証実験・実運用ご相談者様主体で推進)
実運用	運用の改善活動や次ステップに向けた検討アドバイス	

Copyright © 2022 Y-BASE. All Rights Reserved. 21

4. Y_BASEのコンサル事例・これまでに取り組んだ事例の一部

- ・お客様の利便性と予約対応の効率化を実現する「予約システム」を導入。

	・契約業務の効率化とペーパーレスを実現する「電子契約システム」導入 ・OCR・ローコードツールを活用した業務改革の実現に向けた実証実験 ・デジタルを活用した店舗不要の「レンタカー事業」開始 ・メガクラウド(AWS)を活用したサービスの実証・導入事例 ・旅行代理店で日々の実績を可視化 ・野犬被害の深刻化を受けた市民向け注意喚起等におけるデータ活用 ・人流データの取得・公開による、市や市内事業者等のデータ活用 [2] 山口大学／DX 人材育成推進室 [面談者] ○国立山口大学理学部学術博士 学長特命補 佐野崎浩二 ○国立山口大学 DX 人材育成推進室 副室長 湯浅修一 ▼ひとや地域(まち・文化・教育)の well being に貢献する文系DX人材の育成事業(文部科学省「地域活性化人材育成事業～SPARC～」)を、山口県立大学・山口大学・山口学芸大学の3国公私立大学による大学等連携推進法人を設立して、次のようなことを目的として取り組まれている。 ① 地域課題を適切に捉えてDX実践できる人材を育成 ② 山口県産業の装置型から知識集約型への転換に貢献 ▼それぞれ3大学における取組みについては以下のとおりである ① [山口県立大学] PBL型の「地域学」、文理融合の「総合知」で豊かな未来 ② [山口大学] データサイエンス教育を活用、人間の心理・行動の理解等を基礎とするDX人材の育成 ③ [山口学芸大学] STEAM教育とPBLにより、将来のDX人材を育てる教員の養成
--	---

所	感 [1] やまぐち DX 推進拠点 Y-BASE (山口県山口市熊野町) ●山口県では県全体としてデジタル化がもたらす「地域課題の解決」と「新たな価値の創造」によって、県民一人ひとりが、希望するサービスやライフスタイルを自由に選択できる豊かさと幸せを実感する社会の実現を望み「やまぐちデジタル改革」ということを推進されている。このような環境を整備する背景には、官民を挙げたデジタル化・デジタルトランスフォーメーション (DX) を推進していくための施設を設けたとのことである。第4次産業革命とした革新的なインフラには 5G 技術の整備は欠かせない。一方でデジタル技術を活用した生成 AI などを活用した取り組みも各分野でなされているのも事実である。こうした背景から、DX にまつわる情報と連携から考察したプログラムを試行できる、つまり社会環境の変化から想像される効率化に導くべき部分をアプリケーションの開発とあわせ総合的な実証実験をサポートする拠点の利用はさらに重要視されてくるだろう。 具体的には、生成 AI (人工知能) で取り込んだデータを介した語学での会話機能やロボットとの会話機能、更には AI での画像処理機能や文書作成機能などを活用した作業効率や業務効率につながる知識が教授できた。効果とした実現を可能にするための更なる改善に向けた研究を重ねてまいりたい。こうした拠点についてもとくに広島県東部地区においては産業構造の中心であり設置の必要性を強く感じている。 [2] 山口大学 / DX 人材育成推進室 ●DX 人材育成推進室は、山口大学における DX 人材を育成するための推進室として令和 4 年度に立ち上げられた。データとデジタル技術を上手に活用し、ビジネスや社会、生活に変革をもたらす取組として人材育成カリキュラムを設け学生に講義行っている。山口大学理学部に訪れた背景には、デジタル化に対する資本の投下から生みだされる価値やサービスを駆使したDX人材育成には欠かせない教育である。DXマインドや未来を創生しうる人材育成こそYFL 育成プログラムである。それぞれの地域課題を解決へ導く人材育成が主体となっている。 ●入学者を対象とした Yu-DX プログラムは、従来からの YFL 育成プログラムに DX マインドを加え発展させた人材育成プログラ
----------	--

	ムである(YFL+育成プログラム) 【Yu-DX プログラム科目】 ① DX導入 DXに関する基礎的概念を知り, 事例よりその推進の方法について理解する。 ② DS科目 データ活用のためのデータの活用方法, セキュリティ・モラルについて学ぶ。 ③ 知的財産科目 DXの推進が導く知識集約型社会で必要となる知的財産の知識を得る。 ④ DX概論 DXの理念を理解し, その実施方法を事例ベースで学ぶ。 ⑤ DXPBL デジタル技術や知的財産に関する知識などを用いて地域課題の解決方法を考え実践するPBLをおこなう。 こうしたプログラムの活用により well being の考え方に立ち、デジタル技術者と協力してDXを推進し、人や地域（まち・文化・教育）の課題解決に貢献できるDX人材を配置していくことで企業や市役所の体制がDX改変業務に対して効率化を図ることができるのではないかと感じた。今回の視察研修から県全体の進捗に対する取り組みにおいて、府中市における取り組みへの参考とした審議および会派とした要望と課題につなげてまいりたい。
--	---